

第3回宝達志水町総合計画審議会 議事録

1 日時 平成31年3月28日(木) 15:00~17:00

2 場所 生涯学習センターさくらドーム21 2階 視聴覚室

3 審議会委員

No.	団体名等	氏名	備考
1	宝達志水町区長会	網 宣雄	欠席
2	宝達志水町老人会連合会	新田 伸吉	
3	宝達志水町民生児童委員協議会	中村 俊夫	
4	宝達志水町教育委員会	山岸 英美	
5	宝達志水町農業委員会	大山 幹雄	
6	宝達志水町文化協会	廣正 清明	
7	宝達志水町商工会	市村 昭代史	
8	公募委員	岡田 政信	
9	宝達志水町社会福祉協議会	松田 正晴	欠席
10	金沢大学	宇野 文夫	
11	経済・金融評論家	津田 栄	
12	宝達志水町体育協会	寺崎 敏治	欠席
13	石川県中能登農林総合事務所	前川 久義	
14	北陸大学	南谷 直利	
15	宝達志水町PTA連合会	松浦 佐千代	欠席
16	宝達志水町PTA連合会	白川 敬司	欠席

4 議題

- (1) 今後のスケジュールについて
- (2) 基本構想(案)
- (3) その他

5 閉会

<町長挨拶>

本日はお忙しい中ご出席いただき感謝申し上げます。

この審議会も3回目を迎え、1回目、2回目においては皆さまから忌憚のないご意見をいただいております、それを基に基本構想を練り直し、皆さまに示させていただいている。1回目、2回目のご意見の中には、キーワードとして「危機感」というもの、町内の様々なコミュニティが継続されていくことに対して、町としてしっかりとした危機意識があるのかどうか、そういったことが挙げられているのかどうかというご意見をいただき、私どもにおいても何が大切であるのか改めて考え直したうえで、資料を提示させていただいている。

また、審議会の役割についてもご意見をいただいております、委員の皆さまがどのような立場で総合計画の策定に取り組んでいくのか、私達の意見がどの程度反映されるのかといったことに関してもご意見をいただいております。これらを配慮し、総合計画の策定段階については、いくつかのワーキングに分かれて進めていき、新たな意見をいただきつつ、具体的な計画づくりに取り組んでいきたい。

昨日、ある農業者団体の方と話をしたが、総合計画を作っているということだが、農業についての考えを教えてほしいと聞かれた。自分たちの思い、そして行政がどのように取り組んでいくか、しっかりと計画として作って欲しい、これからの道しるべとなるようなもの、実行可能なものを作ってほしいとの意見もあった。個別の計画に関しては、総合計画に盛り込むほか、別途策定をしていきたいと考えているし、農業にとどまらず、様々な産業・事業についても計画を作ることも大切だと考えている。それらをひっくるめた計画として、総合計画を策定しなければならない。

今回は、基本構想についてご審議をいただきたく、ご承認も賜りたいと思っておりますので、皆さまにはご協力を賜りたい。

<会長挨拶>

本日はお忙しい中、ご出席いただき感謝する。網会長が欠席とのことで、職務代理者として会長よりご指名をいただき進めさせていただく。本日は3回目の会議となる。前回は基本構想（案）について皆さまからご意見を頂戴し、さらにヒアリングシートによりたくさんのご意見・ご提案をいただいた。

4. 議題

(1) 今後のスケジュールについて

- 委員：ワーキングが1、2回あるが、このペースでは物事の核心までいかないのもう少し突っ込んだ意見の議論をする討論会にしないと、このようなスケジュールでは結論に行きつかないのではないのではないのか。私は集まっている16人の知恵と英知を結集した議論に時間をかけた方がいいのではないかと思う。もう少し議論を深めるような形にしていきたい。アンケートやデータは話の方向を示しているかもしれないが、必ずしもあてにならない。若い人に定住してもらうにはどうすればいいかというテーマだけに絞ってもいいくらいである。
- 会長代理：事務局は今の意見についてどう考えているのか。今、ここは審議会の場合であり、廣正委員が話した内容はワーキングの要素が含まれているのではないかと思うが。
- 委員：ワーキングをやるのはいいが、早く議論しないと結論に行きつかないのではないか
- 委員：おっしゃることは理解できるが、この審議会でやるものではなく、別の場を設けてするものではないか。こういったことをやるとなれば、毎週やることになるが、行政がそこまで手を広げてできるかと言うと、行政サービスがあり難しい。審議会は提示された答えを出すだけでいいものだ。
- 会長代理：委員はワーキングと審議会に対する理解の違いがあるのではないか。事務局はそこらへんをどう考えているのか。
- 事務局：総合計画については多岐にわたるものであり、全てのことについて審議していただきたい。そして、ワーキンググループの前には町の担当課のほうで、危機感や現状をしっかりと洗い出していきたい。ワーキングテーマが3つでは少ないといった意見もあるが、各委員に検討していただきたいと考えている。全体のことを議論することだけは忘れないでほしい。
- 会長代理：その他のご意見はあるか。
- 委員：審議会であるので、一通りきちんと説明をしていただかないと質問もできない。まずは説明をお願いしたい。そうすれば、論点が浮かび上がり、きちんとした議論ができるのではないか。
- 会長代理：その通りである。それでは議題(2)の基本構想(案)について、説明をお願いしたい。

(2) 基本構想 (案)

(3) その他

- 委員：ずいぶんよくなったが、この中で一番必要なことが抜けていると思う。まず、これは第2次総合計画であるが、第1次総合計画の総括が抜けている。総括のない次期計画などは存在しないので、そこを押さえる必要があるのではないか。それをするにより、書きやすくなると思う。行政は全部やるのが行政であるので、全部やらなければいけないのが当たり前である。そこで、全部できなかった、目標に達することができなかったということがあつたら、そこを明確にすれば、次にやるべきことははっきりするのではないか。
- 事務局：第1次総合計画については、課ごとに総括しているが、今回のものには入っていない。総括の記載については持ち帰って検討したい。第1回審議会資料でこれまでの取り組みとして、できたこと、やったことはまとめてある。ただ、岡田委員が言われたような、じゃあどうだったのかという視点ではまとめきれていないものもある。
- 委員：資料としては問題ないが、実際に問題なのは、最初の文章だと思う。(1) まちづくりの基本理念のなかに、数行加えるだけでよい。
- 事務局：検討する。
- 会長代理：他にご意見・ご質問はあるか。私個人の意見としては、以前から比べて随分分かりやすくなっていると思うが。
- 委員：(4) まちづくりの基本方針に関してだが、基本的には優先順位をつけてもいいだろうと思う。個人的には、行財政改革が大分進んできているということであれば、優先順位は低いのではないか。そのそも、基本方針に入れる必要があるのかとも思う。また、安全な町づくりについても、町の宝ということを考えると優先順位は低いだろう。これは◎で、これは○、これは△というような優先順位を作っておけばどうか。
- 事務局(町長)：ご意見に感謝する。私の中では、町長として大事な責務というのは安全な町づくりだと考えている。一方で町の宝ということを考えれば、これは特に取り上げるのではないのかもしれない。そういった時に、順位付けをどうしたらいいのかということと、○はつけやすいが△はつけにくいと思う。そのあたりを助言いただきたい。
- 委員：優先順位というのは、まちづくりの基本方針を決めたうえで、それに付随するのは△にすればいいと思う。安全な町づくりということは他の市町村でも必ず挙げられるものだが、これ以上のことは書けないと思う。町長はこのあたり、具体的にどうお考えか。

- 事務局（町長）：就任して2年になるが、その間にも何回か避難所を設けるような災害があり、その際に住民に協力してもらいながら、いろいろなことをやっていけないといけないと感じた。例えば、避難所を開設するにあたっては、訓練を繰り返したり、計画を作らなければいけない。そういったことを大事な政策として、住民や関係者と協働してやっていくということを定義しておきたいと考えている。
- 委員：町づくりというのは、住民同士の助け合いや連携ということだと思う。自分たちの住んでいる地域のなかで、連携をとれるような仕掛けを作れば、安全な町づくりにもつながっていくのではないかと。行政がこうしようといっても、人が動かなかつたら町づくりにならない。町の宝を育てるといふなかで連携的に繋がってくるのではないかと。
- 委員：私は新しい基本構想（案）について、花丸をあげたい。前回議題にあがった危機感があるのかということ、今回の案でうまくまとめていただいたので良かったと思う。若い働く世代がある程度いるからこそ、年寄りも動けると思う。そのために、どうしたら若い人が定住してもらえるかを考えないと、とてもじゃないけどやっていけない。そういう面では、たたき台としては良いのではないかと。
- 委員：P 1にIoTやSDGsなどの言葉が記載されているので、その思想を総合計画にも盛り込んでいく必要があるだろう。その点で施策の大綱においても、第1次総合計画よりも言葉自体もステップアップする必要があるのではないかと。「誇り高き若者を育てる」を「地域と世界を見つめる若者を育てる」、「未来の為に学び、楽しむ」を「未来の可能性を学び、楽しむ」、「全員参加の町づくり」を「誰一人取り残さない町づくり」などにしてもいい。また、「生活基盤の整備」を「生活インフラのアップサイクル」、「社会福祉の充実」を「誰一人取り残さない福祉の充実」、「稼ぐ町づくりへの挑戦」は言葉が古いので「ソサエティ5.0への挑戦」、「安全な町づくり」は「セイフティネット作り」、「健全な行財政改革の推進」を「持続可能な行財政改革」と、言葉そのものもアップグレードすれば、若い人たちも引き付けるのではないかと。
- 事務局：町の思いがもう少し出るようにアレンジしていきたい。
- 委員：前回よりは良くなったと思うが、実際にはこれを基に策定委員会に下していくことになる。委員が言うように、8つの基本方針に応じた内容のものに関して、審議委員が意見を出し、それを議論する。この会議で意見を出し合ってもまとまらないと思うので、委員が考えていることを事前にメールなどで出してもらえば、次の場で具体的な議論ができるのではないかと。
- 会長代理：これから審議会とワーキングを具体的にどのような形で進めようと考えているのか。スケジュールに書いてあるが、よく分からない。
- 事務局：今考えているのは、P 7～8の個別施策を各部会に落とすような形である。
- 委員：施策をバツと見たときに、何をしゃべればいいのか分からないのではないかと。委員の皆さんが意見を持っているならば、その意見を吸い上げて下へおろしていけばいいのではないかと。

- 事務局：どういう形になるかは分からないが、予め意見を受けて、それを策定委員会の中で検討していく形に考えていきたい。
- 委員：基本的なことを言うが、例えばワーキンググループを3つに分けるということだが、分けて議論してもだめである。関連している部分をどうやって関連させるかということが重要である。10年前と同じことをやっても意味がない。今期の10年で何をするのか、どういう成果を得たいのかを策定しないといけない。危機感というのは100年後ではなく10年後のものであるということをはっきりさせないといけない。きれいごとの話はもういい。
- 委員：今までの発想にはない具体的な形の、宝達志水町は面白いことをやっているなというような知恵やヒントを審議会で議論する必要がある。
- 事務局：今日の皆さんのご意見などを受けて役場に持ち帰り、早速作って行きたい。それを見ていただきたいので、少しお時間をいただきたい。
- 委員：第1回ワーキングの内容がはっきりしていないのは問題ではないか。
- 事務局：ワーキングについてぼんやりした説明しかしていなかったもので、補足説明をさせていただく。具体的に何をどうするのかということを経験者の方やいろいろな立場の方が議論できればいいということで、ワーキングを予定している。いろんな話をしようと思えば、いろんな人がいればいいが、人数が増えすぎても話ができないという相反する部分もある。いくつかのかたまりでいろんな話があればいいと考えたので、3つの分野に分けた。まずは意見交換からスタートということで第1回を考えている。第1回は6月1日の土曜日、第2回は7月27日の土曜日を予定している。この審議会で具体的にどうすればいいのかを考えるのも意味があるとは思うが、時間や人数の制限があったりして動きにくい。知恵を出し合えるのはワーキングではないかということで提案させていただいた。
- 委員：いつも段取りは事務局が決めているが、全部事務局が考えるのではなく、審議委員が考えたものでもいいのではないか。審議委員の存在意義というのはどこにあるのか。
- 委員：それでは修正をまず求めてもいいのではないか。この場でどんどん議論して、提示されたものに対して意見をしていいと思う。
- 事務局：こういったテーマがあれば話しやすいのではということで、意図的なものはないということをご理解いただきたい。メンバーはまずは公募という形で募集したい。
- 委員：今回で審議会は3回目であり、この3回のなかで出た意見を集約してワーキングテーマにしてもいいのではないか。そうでないと、今まで出た意見の意味がない。
- 委員：ワーキングテーマは(3)まちづくりのテーマの3つの方が良いのではないか。その方が相互の連携がはかかれていいと思う。行政としては分けていいと思うが、基本構想ではもう少し楽に分けたほうが取り組みやすいし、意見も言いやすい。
- 委員：委員の意見に賛成である。まず、4Pのまちづくりのテーマについてこれでいいか議論をする必要があるだろう。このテーマが決まらない限り、次に進めない。

- 事務局：ワーキングの名称はテーマに沿ったものだったが、全く認識されていなかった。目的は外れていないと思うので、言葉は修正するが、このままでいけると感じている。
- 委員：事務局はいつも役所の言葉を使いたがるが、もっと皆が喰いつきやすい分かりやすいものに変えていくことも必要なのではないか。
- 事務局：まず、ワーキングの名称をまちづくりのサブテーマに修正する。それを踏まえて、どのワーキングに参加したいかということのを予めお聞きしておきたい。
- 委員：そのためには、まちづくりのテーマを了承しないとイケない。これが一番大きい問題である。まずはそこをきちんとすべきである。
- 会長代理：了解した。この3つのテーマについて、各委員、意見があればどうぞ。
- 委員：テーマの①と②はある意味一緒だと思う。③は地域の連携や横のつながりをどうするかということだと思う。私たちは10年の間に何かを創り出さなければならない。創り出すためには何をしなければならないということがベースにくると思う。創り出すためにはたいていの場合、新規の企画を持ってくるが、ここで出来ること、自分たちの宝を使ってできないかということを考えなければならない。また、ここに書いていない重要な要素として、「文化」がある。元々ある文化を大事にしないと子供が育っていかない。子供が育っていかないのに定住する訳がないということになる。①②③は必要だが、それとは別の分野で「文化」は必要である。そういう分け方をしてもらえると、非常に委員の方が活躍しやすいし、議論しやすいのではないか。
- 会長代理：宝達志水町の文化を育てるといふ旨があってもいいという意見だが、いかがか。
- 委員：文化の軸とは何か。
- 委員：子どもを育てるといふ部分と、自分たちが持っているものを開発していくということである。地域の中にはいろんな能力を持っている子ども達が沢山いると思う。地元愛とは違った形で文化が出てくるのではないか。文化と言うと文系のイメージがあるが、スポーツでも構わない。ヒルクライムやマラソンをうまく利用するとかいくらでもある。だが、そういうものを成果としては書いてあるが、引き継ぐ部分もあっても良いのではないか。
- 委員：この町の中で皆がほめあうようなことをやっていけばうまくいく。人が寄ってくる。
- 会長代理：「オムライスのまち」といって、みんな一通り知っているが、町の中の人には知らないというのはどうだろうか。
- 委員：オムライスは成功した事例である。東京でもチラホラ聞く。「オムライスのまち」という名前だけは浸透しているが、情報がそこまで浸透していない。
- 委員：委員と近い考えだが、宝を育てるといふ点について、子どもと町で持っているものだと思うので、両方を維持して育てるといふことが基本になる。文化もあるが、この町は農業がメインであろう。工業に重点を置くと不安定になる。むしろ、ここにある逃げないもので、ここしかないというものを重点的に育てることが町の宝に繋が

り、宝に誇りを持たせるのが教育なのではないか。そうすると、安全な町づくりもそれに繋がっていく。テーマが3つ必要かと言われると、1つか2つでも十分だと思う。

○会長代理：ワーキングのことも含めて、テーマの中身や、3つにするのか2つにするのかを決めないといけない。その辺は各委員、どうお考えか。

○委員：このままでもよい。基本的に内容が分かるようにしてあれば、2つでもいいし、3つでもいいのかなと思う。人の話、環境の話、文化の話と分ければいい。

○委員：3番目がピンとこない。①②が順調にまわれれば③はいらなと思う。

○委員：まちづくりのテーマとすれば、OKだと思う。ただ、ワーキングでは①②を足したもの、③という2グループにしたほうがいいだろう。①+②に文化を含めることができるので。

○委員：②町の良さを「伸ばす」のではなく、「創る」の方がいいのではないか。「育て」、「創る」ときて「繋がる」というような、3つの言葉で1つの町が表現できるほうがいいのではないか。

○委員：私は①は人をどう育てていくかということだと思うし、②は広い意味での文化も含めた環境、人が住むうえで気持ちのいい環境をこれから創っていくということのほうがいいのではないか。③は行政としての在り方であるだろう。

○委員：自分の小さい頃は、小学校などで自分の集落が一番と自慢していたが、今も気持ちは同じだと思う。宝達志水町が一番だということを徹底すれば良くなるのではないか。自分の町のいいところを伸ばしていけば、必ずいい町が出来ると思う。

○委員：教育も含め、子供を育てていくことと今まで伝えられてきたものを継承し発展させていくこと、そして安全安心できるような環境が大切だと思う。

○委員：「定住促進」、「住環境」、「若者を育てる」、「自然と文化」というキーワードがいいのではないか。

○委員：なかなか難しいが、「町の宝を育てる」、「暮らしのトップインフラを創る」、「時代の変化やリスクに対応する」という3つの方が選択しやすく、議論しやすいだろう。

○委員：メインテーマが「育てよ！町の宝」ということなので、それに繋がっていくサブテーマである必要がある。先ほど、育てる、創る、繋がるとおっしゃっていたので、繋がる→作る→育てるという順番になれば、メインテーマにすんなりつながるのではないか。また、③は①②と書きぶりを合わせたほうが分かりやすい。

○会長代理：これまでの意見で、大体の方向性は見えたと思う。ワーキングに関しては、固い言葉を使わずまとめていただき、よろしくお願ひしたい。

→●事務局：ワーキングに関しては改めてテーマをしっかりとまとめた時点で、参加意向をお聞きする。現時点ではワーキングがあるということだけを頭に入れていただきたい。

○委員：ワーキングのやり方に関しては、各ブロックに分かれて意見をカードに書いて

もらい、それを貼り出して意見交換するという形をとるのか。

- 事務局：そうである。最終的にグループごとに意見を発表してもらいたい。
- 委員：ワーキングの第2回でもいいが、子ども達を参加させることは可能か。子ども達の柔らかい発想も必要だと思う。
- 事務局（町長）：やってもいいと思うが、検討させていただきたい。サブテーマに関しても、調整させていただきたい。
- 会長代理：サブテーマに関しては今回意見が出たので、事務局で調整していただき、各委員にメールなどで確認してもらうのはどうか。
- 事務局（町長）：了解した。

- 会長代理：それでは、意見も出たようなので、これで終了したい。本日は活発な議論に感謝する。

－以上－